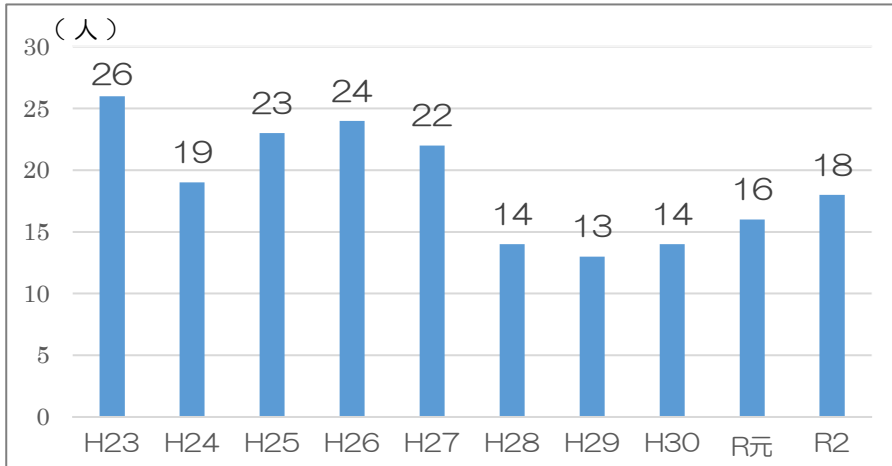


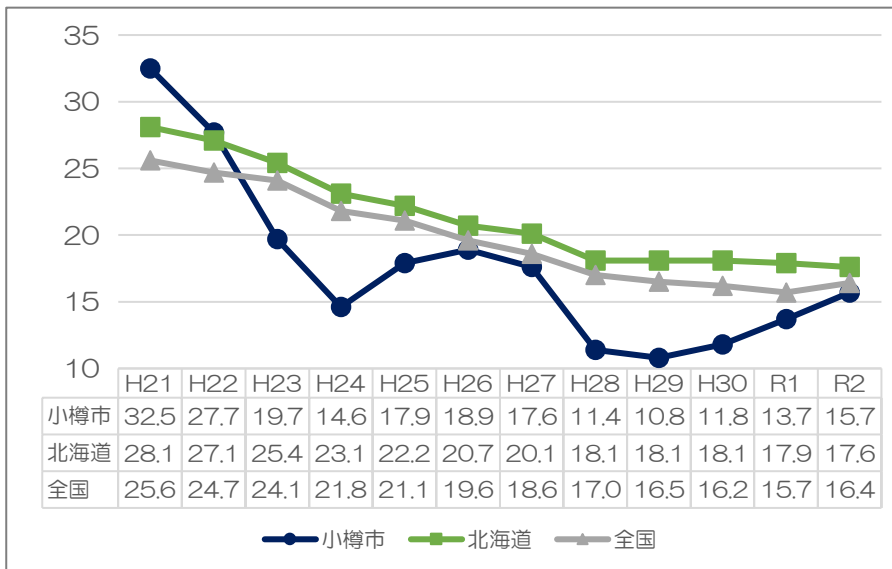
1. 自殺統計

表1 自殺者数の推移 (厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」)



- 令和2年の全国の自殺者は20,907人で、令和元年より933人(前年比4.67%)増加した。
- 小樽市においては、平成27年から減少していたが、平成30年より増加傾向の状況。

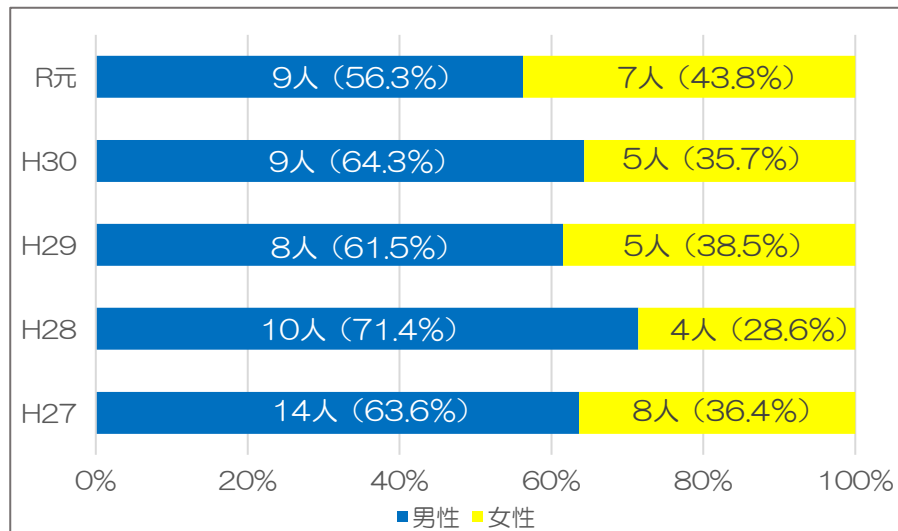
表2 自殺死亡率 (厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」)



- 小樽市の自殺死亡率は全道、全国に比べて低い。
- 計画の数値目標
令和元~4年の平均自殺死亡率15.3以下

ここからは、主に自殺総合対策推進センターが作成した「地域自殺実態プロファイル(2020)」に基づいて過去5年(平成27年~令和元年)の状況(自殺者数79人)について分析しています。

表3 男女別の自殺者の推移 (自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2020)」)



- 表3 自殺者の男女別状況を見ると、平成27~30年は男性が約6~7割、女性が約3割であったが、令和元年は女性の割合が4割を超えた。
- 表4より、過去5年の平均を見ると、男性が約7割、女性が約3割はこれまでと変わらないが、小樽市は全道・全国と比較し女性が占める割合が高い状況。

表 4 男女の割合 (平成 27～令和元年 合計 自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール」(2020))

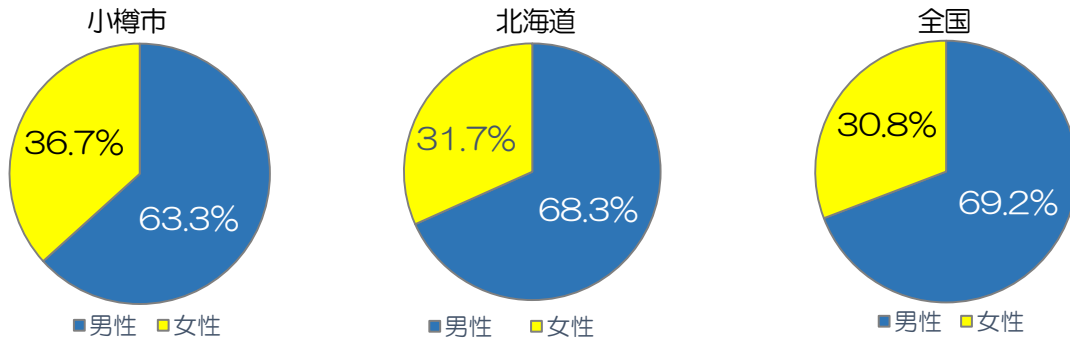
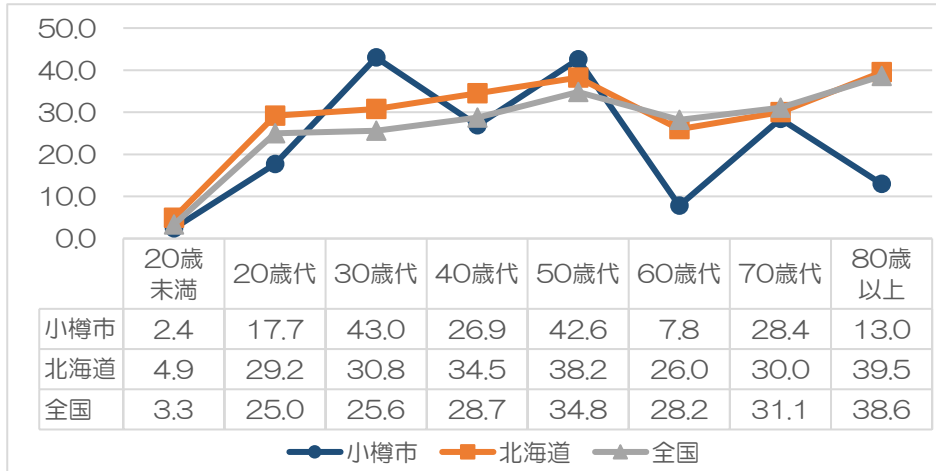


表 5 - 1 男性の年齢別自殺率 (平成 26～30 年 合計) (自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール」(2020))



■表 5 - 1、5 - 2 を比較し、男性の年齢別自殺率の傾向は、平成 26～30 年合計と平成 27～令和元年の合計と傾向は大きく変わらず。

■男性の年代別自殺率は、30 歳代と 50 歳代の働き盛りの世代が全道・全国に比べて高い。

■60 歳代以上においては、全道・全国より低い。

表 5 - 2 男性の年齢別自殺率 (平成 27～令和元年 合計)

(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール」(2020))

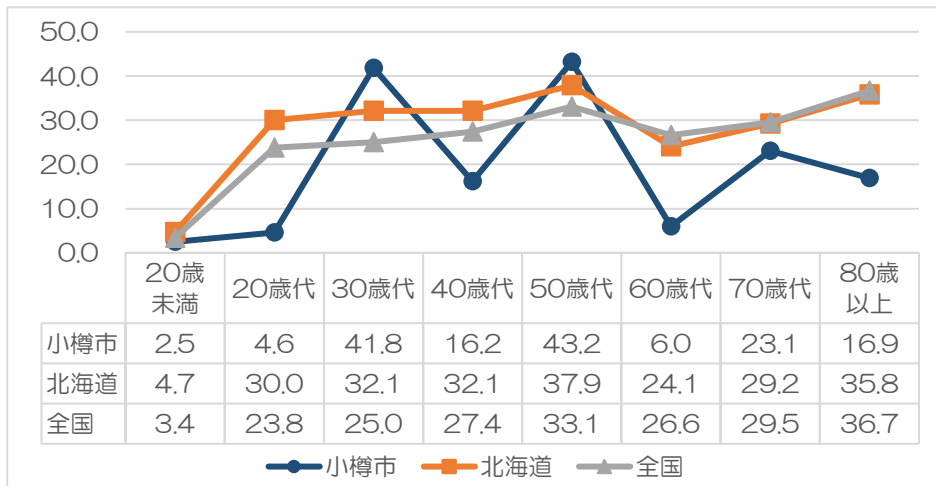
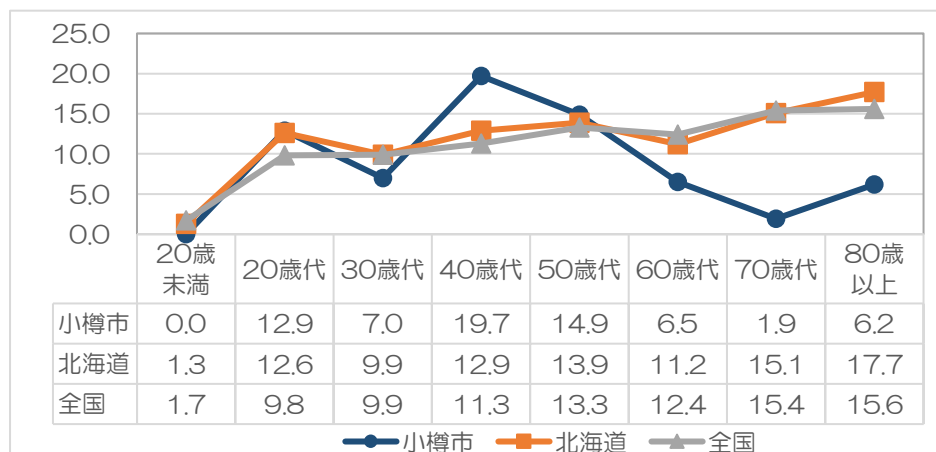


表 6 - 1 女性の年齢別自殺率 (平成 26～30 年 合計) (自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール」(2020))



■表 6 - 1、6 - 2 を比較すると、女性の年齢別自殺率は平成 26～30 年合計では特に 40 歳代の自殺率が高かったが、平成 27～令和元年合計では 20 歳代、40～50 歳の自殺率が全道・全国より高い。

■60 歳代以上においては、全道・全国より低いのはこれまでと同様の傾向。

表6-2 女性の年齢別自殺率（平成27～令和元年 合計）（自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール（2020）」）

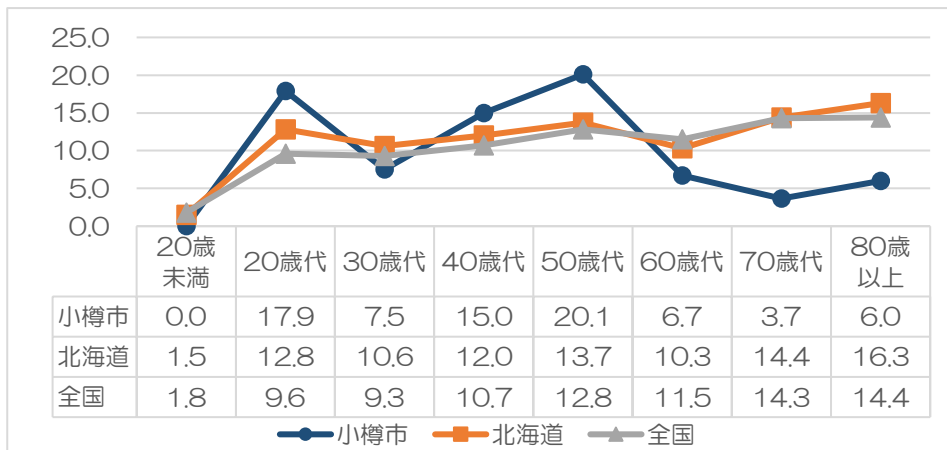
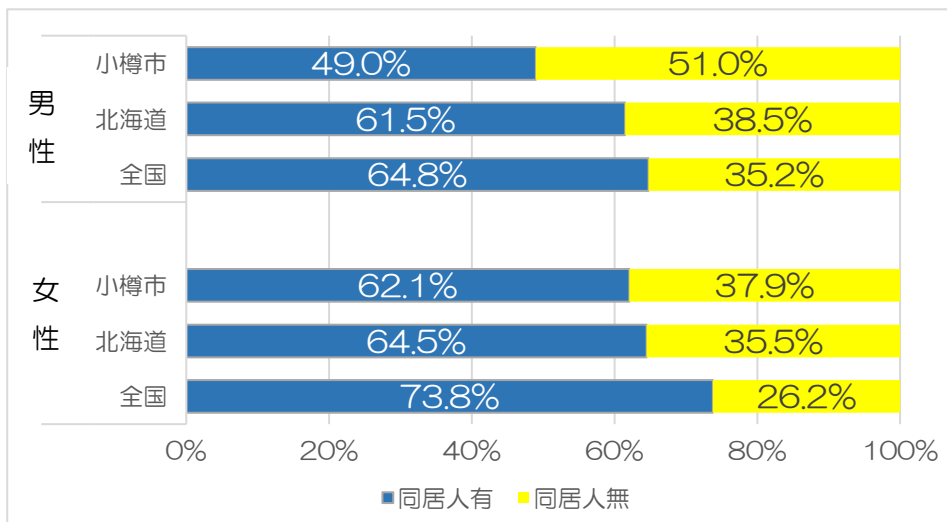


表7 自殺の同居人の状況

（平成27～令和元年 合計 自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール（2020）」）



■男性は、同居人なしの自殺者割合が全道・全国と比較し高い。

■女性は、同居人ありの自殺者割合が高く、全道・全国と同様の傾向。

表8 20歳以上の自殺者の職業の有無

（平成27～令和元年合計）

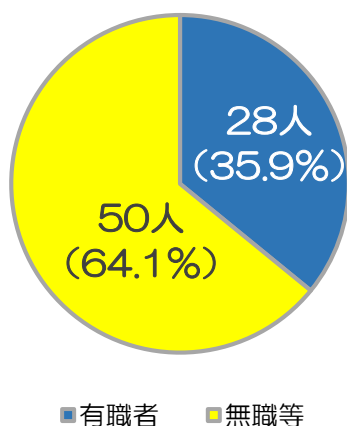


表9 年齢別自殺者の職業の有無

（平成27～令和元年合計 自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール（2020）」）

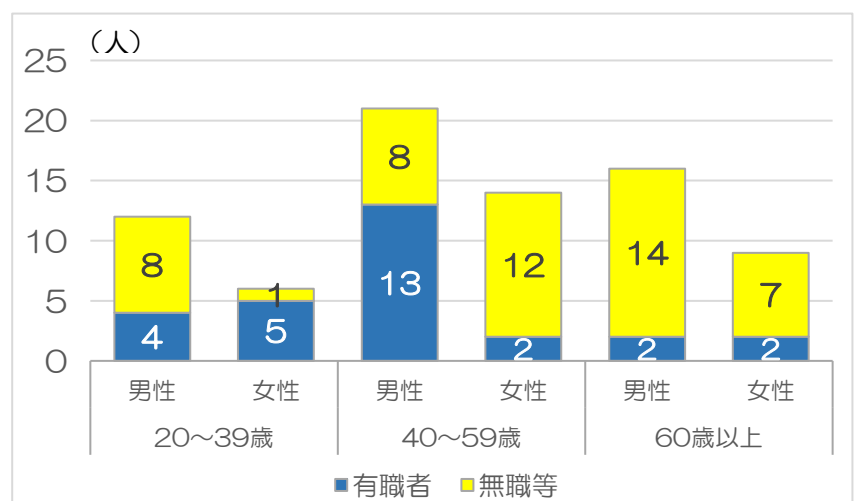


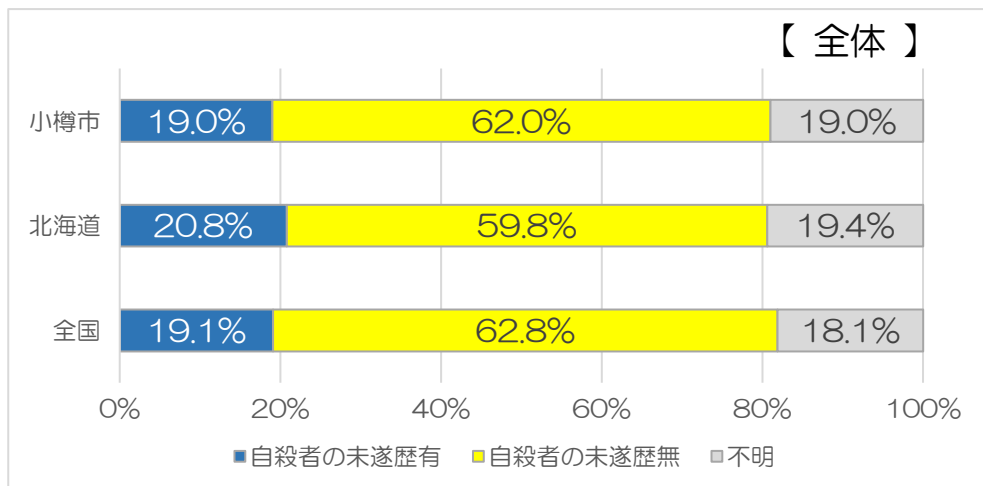
表8、9中には20歳未満および年齢、職業、同独居不詳の1名含まず。

■20歳以上の自殺者の職業の状況を見ると、6割が無職等となっている。

■男性有職者では、40～59歳の働き盛りの世代の自殺者が多い。また、60歳以上では男女共に無職等の自殺者が多い。いずれも、これまでと同様の傾向。

表 10-1 自殺者の未遂歴の有無（全体）

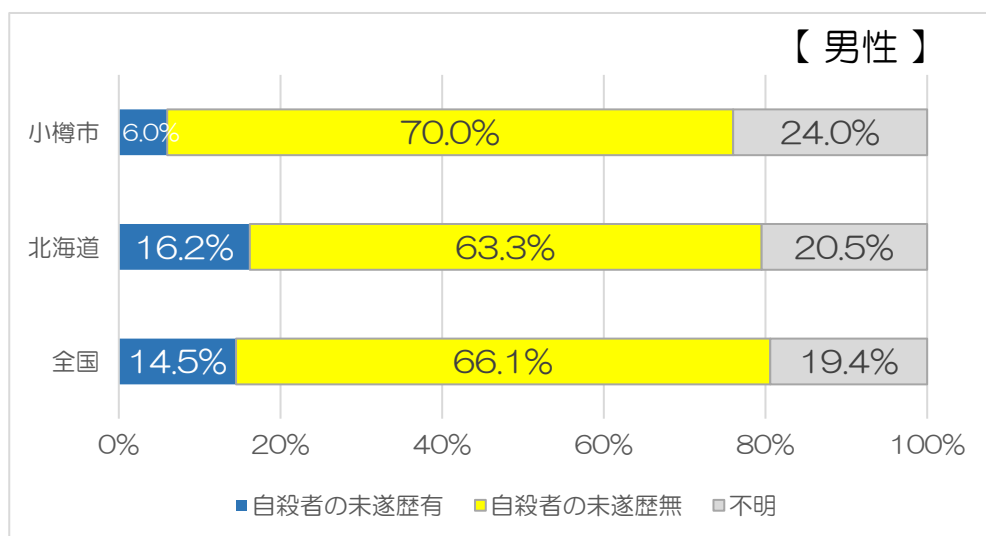
（平27～令和元年合計 自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2020）」）



■約2割で未遂歴があり、全道・全国と同様の状況。

表 10-2 自殺者の未遂歴の有無（男性）

（平成27～令和元年合計 自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2020）」）



■男性より女性の方が自殺未遂歴ありの割合が高い。

■表 10-2 より男性の未遂歴ありの割合は、全道・全国と比べて低い。

表 10-3 より女性はその逆で、全道・全国よりも高く、4割以上が自殺未遂歴ありとなっている。

表 10-3 自殺者の未遂歴の有無（女性）

（平成27～令和元年合計 自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2020）」）

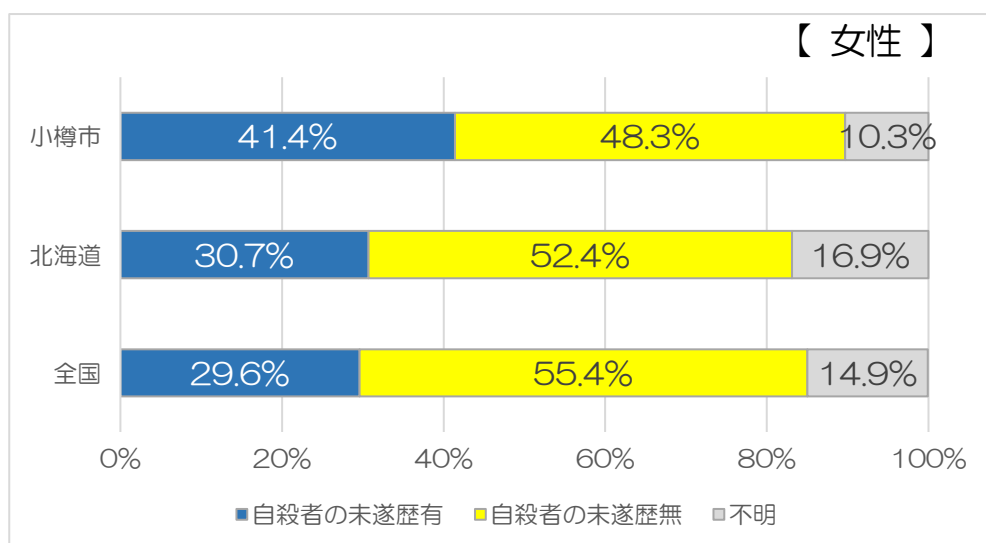
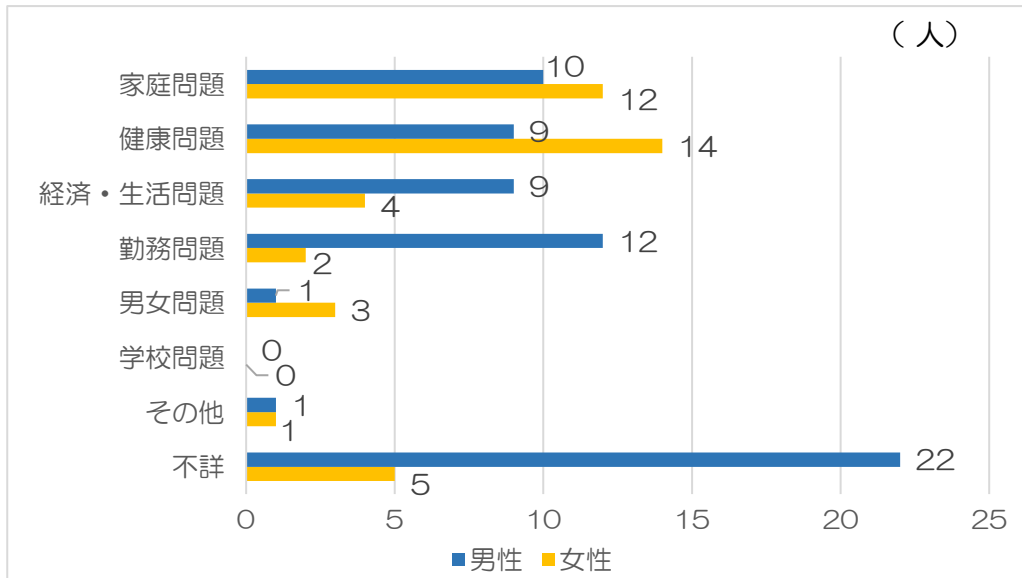


表 11 自殺原因・動機別件数 (平成27～令和元年合計 厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」)

(遺書等の自殺を裏付ける資料により、明らかに推定できる原因・動機を3つまで計上)



- 原因・動機について、男性では勤務問題が最も多く、続いて家庭問題、経済・生活問題となっている。
- 女性では健康問題が最も多く、続いて家庭問題となっている。

表 12 小樽市の主な自殺者の特徴

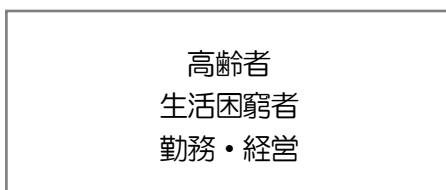
(平成27～令和元年合計 自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2020)」)

自殺者の特性上位5区分	自殺者数(5年計)	割合	自殺死亡率* (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位 男性 60歳以上無職独居	9	11.4%	67.9	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
2位 女性 40～59歳無職同居	7	8.9%	20.3	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺
3位 男性 40～59歳有職同居	7	8.9%	13.5	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
4位 男性 40～59歳有職独居	6	7.6%	64.7	配置転換(昇進/降格含む)→過労+仕事の失敗→うつ状態+アルコール依存→自殺
5位 女性 40～59歳無職独居	5	6.3%	131.9	夫婦間の不和→離婚→生活苦→うつ状態→自殺

【小樽市の自殺対策において重点的に取り組むべき課題】

国は全ての都道府県及び市町村の自殺の実態を分析した「地域実態プロファイル」を作成し、各自治体は、このファイルを参考に地域の自殺の実態を把握し、地域の実情に応じた自殺対策を推進しています。今後重点的に取り組むべき課題として下記のとおり推奨されました。

(平成26～30年合計)



(平成27～令和元年合計)

